

短評

トルコ

中東情勢のカギをにぎる国

内藤 正典著

国家や民族、宗教の関係が複雑に絡み合う今の中東でも、トルコほど立ち位置がわかりにくい国はない。著者はトルコ研究の第一人者。トルコはシリアやイラクと国境を接しながら、これらの地域で勢力圏を広げる過激派組織「イスラム国」(IS)への対応が及び腰に見えるのはなぜなのか。トルコの近現代の歩みをたどりながら、同国が抱える複雑な内情や周辺国との関係をわかりやすく解説している。(集英社・1500円)

先生、

NPOって儲かりますか？

渡辺 豊博著

静岡県三島市で地元の川の再生

事業に取り組み、「街中カフェ」と名付けた総菜の販売店などを運営している「グラウンドワーク三島」というNPOがある。著者はその事務局長を長年務めている元公務員の大学教授だ。英国の事例を紹介しながら社会的企業の重要性を説く一方、経験談をもとに資金調達の難しさなどNPOが抱える課題を説明している。主に若年層を意識したNPOの入門書である。(春風社・1389円)

習近平暗殺計画

加藤 隆則著

目を引くタイトル通り、中国の権力の中核たる北京・中南海で起きた最高指導者の地位を巡る政治的なクーデター計画を取り上げている。中国で古くから繰り返されてきた歴代皇帝の座を奪い合う権謀術数を思わせるドラマだ。読売

新聞の中国取材の責任者だった著者は、社を去ってまで世に出ず決断をした特ダネだとしている。中国共産党が統治する政治の特異さは十分に感じることができる。(文芸春秋・1600円)

セゾン文化財団の挑戦

片山 正夫著

舞台芸術に多彩な助成を続けているセゾン文化財団の歩みを実務担当者がたどる。一財団の軌跡から、1980年代後半以降に大きく変動した日本の文化振興政策の全体像が透けてみえる。87年に堤清二氏が設立した際の財団哲学や、先行財団の実情、米国の事例、文化庁の対応などを紹介。百貨店の文化事業担当から転身、何もわからないところから形をつくっていった現場の声は貴重といえる。(書籍工房早山・2200円)